

<山行記録> 笠ヶ岳 (2,897.8m)

日 時：2012. 8. 8 (水) ~ 9 (木)

岡本

<コースタイム>

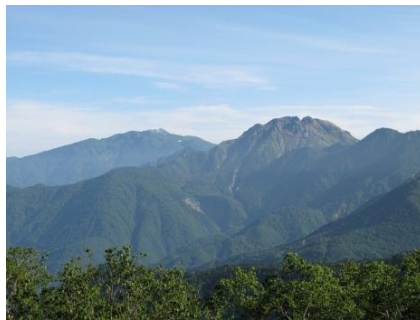
8月8日 5:35 新穂高温泉→6:25 笠新道登山口→9:20 杓子平→10:35 縦走路分岐→11:35 笠ヶ岳山荘⇄笠ヶ岳 (登り 10 分程度)

8月9日 6:00 笠ヶ岳小屋→6:55 笠新道分岐→7:40 秩父平→9:00 大ノマ分岐→9:25 小池新道分岐→9:50 鏡平小屋 (昼食 20 分) →11:15 秩父沢出合→12:05 わさび平小屋 (休憩) →13:05 新穂高温泉

笠ヶ岳へは、3~40 年前に折立峠から黒部五郎を通り抜けて、クリヤ谷へ下りたことがあると記憶するが、それ以来のことであり、弓折岳以南のコースはもう全く覚えていない。今回はまだ歩いたことのない笠新道を登ると、殆ど記憶に残っていない笠ヶ岳へ登るのが目的だ。笠新道は、新穂高温泉と笠ヶ岳の標高差約 1,800mあり、その内の約 1,500mの標高差に当たる登山コースだ。このコースは、北アルプスの 3 大急登には入っていないが、十分それらに匹敵する急登だと思う。その意味でも、是非とも歩いておきたかった道だ。

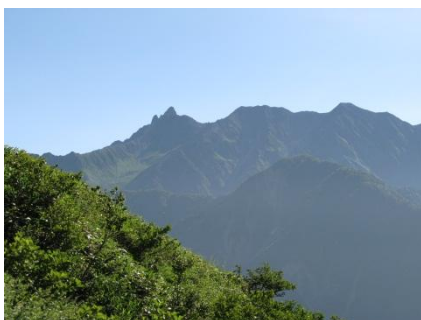
新穂高温泉から 1 時間弱林道歩きをする。笠新道の分岐点には綺麗な水が湧いており、絶好の水場になっている。登山口には、標識もありまず見落とすことは無い。笠新道は、その入口からいきなり急登になる。しかし、早朝の樹林帯の中で涼しく、また、最初の間は一定の歩幅をキープし易い道になっており、急登ではあるが意外に歩き易い。1,700mの標識を過ぎた辺りから徐々に景色が見え出す。逆光と朝靄のため、少し灰色がかった青色の、くすんだ感じの景色が徐々に開けてくる。

登るにつれ、ゴロゴロした岩も増え、段々に歩き辛くなる。思った通りの急登だが、まだそれ程の負担感はない。1,800mを超える頃になると、展望も大きく開けるようになり、陽も昇った分、景色も綺麗に見えて来る。また、高度と共に、心地よい風も感じられるようになり、木陰に入ると案外涼しい。しかし、汗の勢いは止まらず、水分を小まめに取る。



1,920m 地点の標識が

現れ、杓子平まで残り半分の表示があり、コースタイムが一時間半と書いてある。昭文社の地図では、杓子平まで 4 時間 20 分とあるので、ここは油断しないで歩くことにする。しかし、こ



こまで、登山口から 1 時間 20 分余りで来ているので、存外 1 時間半で行けるかとの期待も起こり、少しほっとする。登るにつれ、徐々に樹林帯の木が少なくなり、直接太陽に照らされる時間が増える。急な岩場も多くなり、少しは空気も影響するのか、徐々に体が重くなっていく。槍・穂高の景色に慰めながら、もう少しと頑張る。

2,000m を超える辺りから徐々に高山植物も見られるようになる。この辺りから更に登り勾配がきつくなる。丁度、

カルデラの外輪山のように、カールの外側の登りが続き、上に行くほど勾配もきつくなる。ただ、この道の救いは下り部分が全くなく、ひたすら登りばかりが続くことだ。ペースさえ掴めば、一本調子の登りは我慢し易く、少ない負担で済むような気がする。

標高差 200~300mの急勾配の坂を登り切ると、突然、杓子平のカールが現れ、眼前にはどっしりと構えた笠ヶ岳が迫る。ここからは、はい松と高山植物だけの世界で、美しいカールの景色が疲れを忘れさせてくれる。時間もまだ9時半になっていない。ここまで来れば何とか昼前後には小屋に着けると、少しほっとした気分になり、少しスローダウンして歩く。少しカールを登ると檜穂も綺麗に見えて来る。お花畑も綺麗だ。風景を楽しみながら歩いているとくくっと鳴き声がある。声のする方を眺めると、親鳥の雷鳥がいる。更に目を懲らすと子供も3羽近くにいる。今年3度目の雷鳥だ。暫く雷鳥親子の行方を見つめる。



カールを登ると檜穂も綺麗に見えて来る。お花畑も綺麗だ。風景を楽しみながら歩いているとくくっと鳴き声がある。声のする方を眺めると、親鳥の雷鳥がいる。更に目を懲らすと子供も3羽近くにいる。今年3度目の雷鳥だ。暫く雷鳥親子の行方を見つめる。

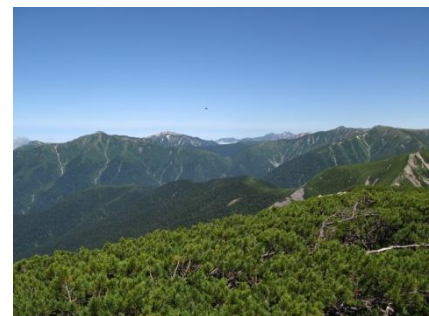


しかし、ペースダウンすると何となく歩くのが億劫になる。カールも上に行くほど急斜面になり、足も重くなる。気合いを入れ直し再び斜面を登る。反対を振り返ると檜・穂高が綺麗に見える。陽も高くなり、朝靄もなくなり、その姿もくっきりと見え、爽快な気分になる。最後の急斜面を登り切ると尾根道との合流点だ。



尾根に出ると後は快適な山歩きが楽しめると思った。が、ここから笠ヶ岳までが意外に苦しい。結構距離もアップダウンもある。日差しが強く、肌がじりじり焼かれる。下から吹き上がる風が、肌の火照りを冷ましてくれ、少し楽な気分になる。少し足を止め振り返ってみると黒部五郎

や薬師岳、更に裏銀座の山々もよく見える。景色も天気も良いのだが、やはり、1,600m登った後のアップダウンは堪える。山荘までの最後の登りは歯を食いしばっての一步一歩となる。



山荘へは昼前に到着した。明日朝一番に笠ヶ岳山頂へ登る予定であったが、まだ時間も残り、気持ちがダレない前に登ることにする。空荷で歩き出すと、体が少し浮いたような気分になる。



10分程登ると山頂だ。山頂の手前に飾けのない祠があり、「山頂→」の標識があり、その方向へ行くと三角点がある。そこに標識とも言えない「笠ヶ岳」と書いた板切れが置いてある。百名山の一つにしては貧素な標識である。しかし、看板とは裏腹に360度の大大パノラマは素晴らしい。流石に、その姿にしても、頂上からの展望にしても、百名山に値する山だと思う。

ゆっくり小屋に戻り、ビールを飲む。徹夜のドライブの疲れもあり、夕飯まで少し休む。夕食が終わる頃、徐々に夕焼けが始まる。夕焼けと夕日に映える槍穂を見て休む。

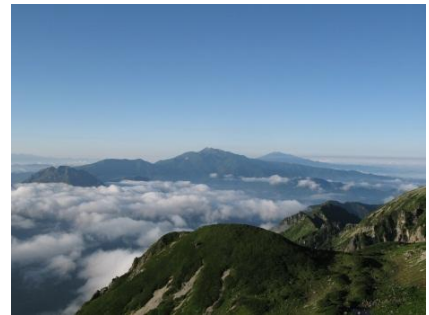


部屋が少し騒がしくなり目を覚ますと4時半だ。もう殆どの人は起きている。窓から外を眺めると丁度朝日が昇ってきたところだ。窓は、東向きで丁度槍穂が真正面に見える。この場所は、前に槍穂があるため雲海から昇る朝日は見えない。が、雰囲気は十分に楽しめる。少しずぼらをして小屋の窓



から写真を撮る。

朝はゆっくり食事を取り、6時頃に小屋を発った。7~80人位いた泊まり客はもう殆どいない。殆どの人は5時前に食事を済ませ、発ったようだ。どのコースを下りようか少し考えたが、天気も良いことだし予定通り鏡平経由で下りることにする。このコースだと、尾根歩きの時間も長く、存分に景色を楽しめる。少し歩き小屋の方を振り返ると焼岳、乗鞍岳、御岳が雲に浮かんで綺麗に見える。また、前方には、黒部五郎と薬師岳、そして尾根続きには双六、三又、鷲羽の山々、右手は槍穂、左手には白山、360度の大パノラマの道が続く。



抜戸岳を越え、少し行くと急な下りになる。下りきったところが、カールになっている秩父平だ。綺麗な場所だ。少し休憩を取る。

そこから150m余り大ノマ岳まで登り、また、200m程下り大ノマ乗越に至る。更に200m近く弓折岳まで登り返す。途中のお花畑や、



尾根に出たときの涼しい風の為、少しは癒やされるが、思った以上に負担感のあるアップダウンだ。

双六と鏡平の分岐に到着する。流石にこの辺りに来ると人が多い。鏡平も真下に見え、ここからはもう登りはない。展望も徐々



に狭まっていく。が、日差しだけは益々強くなり、風も殆どなく、気温もどんどん上がってゆく。結構きつい。鏡平小屋で少し休憩を取り、後は一気に小池新道を下り、わさび平小屋まで行く。ここから、1時間近い林道歩きをすれば新穂高温泉だ。暑さに耐えながら修行僧になったつもりで、ひたすら歩き切る。

以上